

15 位牌の由来

ある親孝行の息子が、親父が年取って隠居してから、夏になると真昼は暑い、晩も暑いから、そうして、屋敷のそばにゲゲツいうて木がありますでしょう。あの大きい木があつたもんだから、そこに朝晩いつも床を造って寝起きして。そうして楽しんで、夕涼みしたら、朝、ゆったり休んでいたらしいですよ。そうだから、もう親父もある程度年取って、老衰したもんだから死んでしまったらしい。

親孝行の息子は、考え出して、生きておる時には親父の世話になつて、われわれはこんな一人前大きくなつたもんだから、死んで何を親父とあがめて拝むかという、頭を捻って考え出したものが、その夕涼みしたり、朝休んだりするところのゲゲツを切つて、それをきれいに、高さも幅も要領よく作つて、立派に磨いて、それで、朝晩お茶を供えて花添えて、拝みよつたらしいです。今日もお陰様で満足に飯も食べて、元

氣にみんな働いてきました。そうして、年中行事の節日、何かの行事のご馳走も食べる時にも、いつも、その古い木の根っこにあがめて拝みよつたらしい。

それをまた、嫁さんが見てですね、いえば妻が見て、うちの旦那さんはもう狂つている、大変になつてしまつたと思つて、主人がいない間にその古い木の根っこを竈の前に持つて行つてですね、このへんではヘータングサーいう、火を燃やす時の棒、木の枝です。その熱い棒をこの古い根っこに突き付けてですね、うちの親父は馬鹿になつておるから、こんなことをするんだというて。そうしたら、その木の根っこがですね、水膨れあがつた。そうして、倒れたり起きたりして、相当やりおつたらしい。それから女は驚いて、これはもう神になつておる、大変なことになつたというて、慌ててですね、そうして、主人を呼んできて、

「こつたおるが、これ、あんたが拝んだからこつたんだ。もう大変なことになつておるが、どうするか」と言つたら、その息子がですね、ちゃんと仏壇に持つていつてあがめて、そうして、ひざまづきしてね、

「今日の家の妻がやったことは誠に申し訳ない。もうこれ以上絶対させませんから、神になつた木の根っこでも、神を神としてあがめますので、何の災いもないようにお願いします、お父さん」と言つたから、水膨れもなくなつて、それから、その木の根っこが治まつてですね、それ以来夫婦ともに朝晩拝んで、満足に暮らしたという話、親父がしよつたですよ。これ恐らく私は、坊さんからならつたかも知れないと思うんです。なんぼ古い木の根っこでも、なんぼ石でも、拝んであがめたなら、神になるなあとという話、感心しましたよ。

それが位牌の由来とかいつたですよ。それから改造、改造されて、今のような位牌になつたらしいですよ。